

現代英語の語彙的・構文的事象

村田勇三郎

はじめに

Berkeley FrameNet Lexicon について紹介したい。

パソコンで第4回国際構文理論学会 (the Fourth International Conference on Construction Grammar September 1-3, 2006, The University of Tokyo, Japan) を検索していたら、9月1日開催の前日の8月31日午前10時から午後6時迄 Tutorial on FrameNet (Lecturers: Collin Baker, Charles Fillmore) を開くが、参加者を40名に限定するので希望者は応募してほしいとあった。当日東大、駒場キャンパスのコンピューター教室で <http://framenet.icsi.berkeley.edu/> と tutorial 独自の <http://jolticsi.berkeley.edu:8080/efn/fntutorial.html> にアクセスして講義がはじまった。Corpus lexicography, the FrameNet Lexicon についての解説で始まり、The FrameNet project aims at producing a lexical resource that is “frame-based” and “corpus-based”. Frame-based: Meaning descriptions are based on understanding of conceptual structures called “frames”. Corpus-based: information about meanings and usage are derived from corpus evidence, not linguists’ intuitions. であるという。イギリスのBNC (British National Corpus) に対して、アメリカにもANC (American National Corpus) があって当然であるという主張である。BNCはcorpus そのものであるが、Fillmore が現在構想中のものはFrameNet という枠組みに基づいた壮大なLexiconでありその具体例を幾つか提示してくれた。それは格文法 (Agent/Cause, Goal, Theme, etc.) にFillmoreが現在、構築中のFrame Semanticsを合体させたLexiconである。

Frame Semanticsとは all the (content) words in the language should be explained with reference to their background frames とし、a frame-informed dictionary ideally has two parts for each entry: one part that explains the frame, another part that shows how the word belongs in the frame.

このBerkeley FrameNet は frame semantics に基づきホストコンピュータに直結方式 (on-line) の英語コーパスで、語がもつ語義上・統語上の結合価 (valences) を付記する。このFrameNet は利用者が容易に利用できるように分類整理された大量のデータで現時点で8,900の lexical units と6,100以上の注釈と625以上の semantic frames で枠付けされ、135,000以上の注釈付き文が用意されている (<http://framenet.icsi.berkeley.edu/>)

例えば pedestrian という名詞は「(車が走る道路を歩く) 歩行者、徒歩旅行者、競歩者」という語義が通例の英和辞典に掲載されている。

(1) Karl hit a pedestrian on his way to work today.

(1) は次の二つの読みが考えられる。

i. カールは (けんか早いので、) 今日仕事に行く途中歩行者をなぐった。

ii. カールは（自動車か自転車に乗っていたが、）今日仕事に行く途中歩行者に衝突した。

Google から次の諸例が検索された。

1. Mr. Peguero was not aware that his vehicle had struck a pedestrian.
2. Specifically, if you hit a pedestrian while driving at 20 mph, the pedestrian has a 95% chance of survival.
3. If you hit a pedestrian, it is your fault even if you have the right of way.
4. A sports car hit a pedestrian trying to cross the road.
pedestrian casualties, fatalities, accidents, deaths
pedestrian zones, pedestrian safety, pedestrian-friendly roads

したがって ii. の解釈が正しいことが理解できる。

frame にもとづく定義とは乗り物（バス、自動車、自転車）と歩行者が共有する空間があって、その脈絡内で歩いて移動する人が歩行者（pedestrian）である。常に人と乗り物（vehicles）の対立が伴う。公園を散歩中心臓発作による死亡の場合は pedestrian casualties（歩行者の交通事故死傷者）とはいわない。frame semantics とはそれぞれの語が背景となる枠組みとの関わりで説明されるとする。枠組みには commerce（商取引）、emotion（情緒）、thought（思考）、opinion（意見）、judgment（意見）、motion（動作）、communication（伝達）、body actions（しぐさ）、等などに区分される。他の例を挙げる。

(2) Auks build their nests on land.

(3) ? Sparrows build their nests on land.

(2) ではウミスズメは大洋で餌を食べるが、land に巣を作る。この文脈では land は sea と対比されているので自然な読みであるが、(3) では on land は冗長で不用である。

(4) *The fox that lives near our farm likes chicken.

この文ではナプキンを首から下げ、フライドチキンをナイフとフォークで食べている狐を連想させる。云うまでもなく a chicken とすれば普通の読みである。以上 Fillmore のいう frame とは J.R.Firth の唱える context of situation（場面の脈絡）を想起させる pragmatic concept（語用論的概念）といえよう。更に各例文に Agent/Cause, Theme, Goal 等の theta role（主題役割）が付加される。

[European heads of government... AGENT] showered [telegrams of congratulation THEME]

[on Clinton GOAL], saying...

[I AGENT] plunged [my hands THEME] [wrist deep DISTANCE] [in the fragrant herbs GOAL]...

2. 中間自動詞 (Middle Intransitive)

2.1 序

- (1) Toshiba do sell well, don't they? (BNC)
(東芝の製品は本当によく売れるね)
- (2) It looks splendid, it reads well. (BNC)
(豪華だし,内容もよい)
- (3) It has no elasticity, is brittle and breaks easily when brushed or combed. (BNC)
(それは弾力性がなく, もろく, ブラシをかけたたり, くしでとかすとすぐこわれます)

(1), (2), (3) が本稿で取り上げる典型的な中間自動詞構文である。
次を見られたい。

- (4) John broke the vase yesterday. The vase broke yesterday. (ergative)
- (5) The vase was broken yesterday. (passive)

(4) に見られるように英語には他動詞構文の目的語を主語に据えて自動詞構文に交替可能な動詞がかなりある。この種の動詞を能格動詞 (ergative verb) という。この種の動詞に様態副詞 (manner adverb) の well, easily を後置させ出来たのが (1), (2), (3) の中間自動詞構文で、伝統文法では activo-passive (能動受動態) といわれた。(3) で注目すべきは brush や comb は受動態になっているが, break は中間自動詞として用いられている。生成文法理論にもとづく博士論文では middle construction という名称がよく見かける。自動詞と他動詞の中間にあるのでそう呼ばれたのであろうが, ドイツ語やフランス語のように再帰代名詞を用いるという形態的特徴がないので middle construction という呼称は実体がなく大袈裟すぎるので, Huddleston-Pullum (2004) は middle intransitive (中間自動詞) といっている。(5) はいうまでもなく受動態である。middle intransitive (中間自動詞) は主語になる (代) 名詞は主に被動者 (patient) の関係にある。時制は現在時制 (present tense) が普通だが, 法助動詞 (modal Aux) は will が用いられ, 否定辞 (Neg) が伴うことが多く, また様態副詞 (manner adverb) が共起する。文の意味はある特定の出来事 (a particular (specific) event) ではなく, 一般的な状態 (a general state) を述べている。従って *This book reads. とか *This shirt washed yesterday. とはいわない (Halliday 1967: 47)

ところで (6) The book reads well. とはいえるが, (7) *The book writes (learns, understands) well. とはいわない。だが (8) This pen writes smoothly. (このペンはすらすら書ける) ということはできる。(6) の the book は被動者 (patient) であるが (8) の this pen は具格 (instrument) の関係にある。つぎの (9) で selling は良くて buying は非文であり, (10) では frighten は良くて astonish は非文である。この相違をどう説明したらよいか。

- (9) Her novels' re selling (*buying) like hot cakes. (彼女の小説は飛ぶように売れている)

(10) Mary doesn't frighten (*astonish) easily.

勿論 (10) は受動態や tough 移動構文に交替して表わすほうが普通である。

(11) Mary isn't easily astonished. (passive)

(12) Mary isn't easy to astonish. ('tough' movement)

受動態や tough 移動構文が無標 (unmarked) といわれるのに対し、中間自動詞構文はその使用にあたって制約が多く、流動的の有標 (marked) といわれる。この構文がしばしば研究論文で取り上げられるのはそのためである。

2.2 能格動詞と中間自動詞の曖昧性

Halliday (1968: 187) は次の文は曖昧で二様に解せるといっている。

(1) This door doesn't open in wet weather.

i. の読みは It stays closed. 「開かない」という意で能格動詞 (ergative) の働きを持つ解釈であり、ii. の読みは It cannot be opened because of the damp. 「開けられない」という意で中間自動詞 (middle intransitive) の解釈である。

Fellbaum (1986: 6) も類似の現象例をあげている。

(2) The door closes easily; you just have to press down. (middle intransitive)

(3) The door closes easily; it only takes a gust of air. (ergative)

(2) では「下に押せばよい」という付帯的説明から判断して「簡単に閉められる」という中間自動詞の読みであり、(3) では「ちょっと風が吹けば」とあるから、「簡単に閉まる」という能格動詞の読みとなる。

(4) The door is easy to close.

ちなみに (4) は「そのドアは閉めるのが簡単だ」であるから、「簡単に閉められる」と同意であり、(2) と働きは同じである。ところで次の文の相違はどう識別できるであろうか。

a. John understands easily. (recipient)

b. John is easy to understand. (patient)

c. The clothes wash easily. (patient)

a. 「ジョンは簡単に理解する、物わかりが良い」 b. 「ジョンを理解することは簡単だ、ジョンのいうことは容易に解る」 c. 「その衣類は簡単に洗える」で、a. の主語は受容格 (recipient) で、

b. c.は被動者 (patient) であり, c.が中間自動詞である。aとcの主題役割 (theta role) の相違をこの際峻別しておきたい。

(5) The toy boat floats easily if you blow hard into its sail. ('middle' intransitive)

(帆を強く吹けば, 簡単に浮かべられる)

(6) The toy boat floats easily if there is a strong breeze. (ergative)

(風が吹けば, 簡単に浮く)

中間自動詞の働きを有する動詞の主語には (2), (5) から理解できるように背後に人間の力の働きかけを読み取ることがわかる。

(7) *His papers won't / don't read.

(8) His papers won't/ don't read easily.

(2)' *The door closes; you just have to press down.

(3)' The door closes; it only takes a gust of air.

(7), (8), (2)' (3)の云わんとするところは中間自動詞には様態副詞が後置する必要があるが, 能格動詞は単独で使用できるということである。(7) の read は他動詞, (3)'の close は能格動詞である。

cf. i. The window closed (easily). (ergative)

ii. The window closes * (easily). (middle)

iii. The vase broke (into pieces). (ergative)

iv. The vase breaks * (easily). (middle)

(9) The shutters easily close. (ergative)

(10) The shutters close easily. (middle)

(11) The car drives easily.

(12) *The car easily drive.

(13) The meat cuts easily.

(14) *The meat easily cuts.

なお (9) の能格動詞の前に様態副詞を前置することができることに注意されたい。「(12), (14) が容認されない理由は drive, cut は能格 (ergative) 動詞として用いることができないからである」と Fellbaum (1986: 7) は註記している。

(15) The wall paints easily.

(16) Chickens kill easily.

- (17) Bureaucrats bribe easily.
- (18) The baggage transfers efficiently.
- (19) The letters transpose easily.
- (20) The speech transcribes well.
- (21) Messages transmit rapidly by satellite.

(15) から (21) は Keyser-Roeper (1984: 383-4) に容認文として載っている例文であるが、同僚の英米出身の英語教師に容認性の可否を問うと以下の通りであった。(15) は 'unlikely', (16) は 'nonsense' であるといい、(17) は Fellbaum (1986: 23) の註では「この文は多くの母国語話者によって非文とされている」('rejected by many native speakers') とある。筆者が聞いたイギリス人教師 (Oxford大, History 専攻) は Bureaucrats easily bribe.なら容認されるという応答であった。bribeを能格動詞と解して答えたに外ならない。(18) から (21) の文は受動態に交替したほうが意味鮮明であるという応答であったことから解るように中間自動詞構文の容認性をめぐって個人差が顕著にみられる。

2.3 共起する副詞類

1. 総称的 (generic) であって、非特定の (non-specific), 2. 意志が伴わない ([- volitional]) という特性があるが³, 圧倒的に easily, well が多用されている。

- (1) The tent puts up in anybody's (one's, their, * my) backyard.
- (2) *This meat cuts. (肯定文では非文)
- (3) This meat doesn't cut. (否定文では様態副詞が伴わなくとも許容される)
- (4) The veal cuts easily (quickly, * carefully, * competently)

*The veal cuts tender. という文を日本人による研究論文に見かけたが³, tender は [+volitional] であり、中間自動詞とは共起しない。cf. Love me tender.

- (5) Russian novels read easily (like mysteries, * voraciously).
- (6) Japanese cars handle well (smoothly, easily, * expertly, * cautiously).
- (7) Red wine spots don't wash out easily.
- (8) Cotton irons easily.

副詞類には、like+(NP, S), in + NP, with/without+ NP, 節などがある。

- (9) This book reads like a thriller.
- (10) This dog food cuts and chews like meat.
- (11) This wine drinks like it was water.
- (12) These shirts wash in cold water only

- (14) This one is knitted in a linen-mix yarn which washes well and feels especially soft to touch.
(これは麻混紡糸で編んであり、よく洗濯が出来、特に肌触りがよい) 文中の well は with a good result の意である。

共起する様態副詞は意味的に三つに区分できる:

1. 速度 (e.g. fast, quickly, rapidly, slowly)
(15) Datsuns sell quicker than Toyotas.
2. 評価 (e.g. badly, favourably, poorly, properly, reliably, smoothly, well)
(16) I am afraid that this scene does not photograph well.
3. 容易さ (e.g. easily, readily, with/without difficulty)
(17) These mandarins peel easily, but those oranges peel only with great difficulty.
(18) Top-floor apartments tend not to rent so easily as ground-floor ones.
(19) The clothes wash with no trouble.

2.4 主語の主題役割 (theta roles)

中間自動詞構文の主語は殆どは被動者 (patient) であるが、時に具格 (instrument), 経験者格 (experiencer) も散見される。場所格 (locative), 受容者格 (recipient) は例外的である。主語が動作者 (agent) や結果格 (effected) の主題役割を担う場合は排除される。publish a book, make a box, construct a bridge, build a house, produce microchips などの目的語はいずれも結果格であるからこれら目的語を主語にして中間自動詞構文を生成することはできない。

- (1) The lawn mower handles easily.
- (2) *The boss handles easily.
- (3) Sweatshirts wash in the machine.
- (4) *Babies wash in small plastic tubs.

(1), (3) の主語は物で主題役割は被動者 (patient) であるが, (2), (4) の主語は人間 ([+human]) で動作主 (agent) と解するのが自然であり, 従って (2), (4) は非文である。次をみられたい。

- (5) Children don't wash easily. (Halliday1967: 49)

(5) は3通りに解釈でき、曖昧である。

- i. Children don't wash themselves easily. (agent)
(子供は簡単に身体を洗わない)
- ii. Children don't wash the clothes easily. (agent)

(子供は簡単に洗濯しない)

iii. Children can't be washed easily. (patient)

(子供の身体は簡単に洗えない)

iii.が中間自動詞の読みで、Children are not easy to wash.と同意である。

(6) This pencil writes beautifully.

(7) The knife cuts well.

(8) This straw sucks well. (このストローはよく吸える)

(6), (7), (8)の主語は具格 (instrument) の関係にある。

(9) *Wool sweaters knit easily. cf. Wool sweaters wash easily

(10) *These shoes manufacture in Brazil. cf. These shoes sell well in Brazil.

(9), (10)の主語は結果格 (effected) であるので非文である。

(11) Betty frightens easily.

(12) Mary doesn't shock so easily.

cf. Mary is not so easily shocked.

(13) Alexei is pale, tires easily and has frequent colds and infections

(アレクシイは顔色が悪く、疲れ易いし、度々風邪や感染にかかる)

(11), (12), (13)の主語は経験者格 (experiencer) である。(13)は gets (is) tired のほうが普通。

(14) This lake fishes well. cf. I've never fished (in) this lake.

(15) The Kingsland police bribe easily. (キングズランド警察署は買収されやすい)

(14)は場所格 (locative) であり、(15)は受容者格 (recipient) の関係にある。(15)は Dixon (2005: 453) が挙げている例であるが、'The Recipient may also be promoted.'と註を付記している。

2.5 動詞の特性

目的語が結果格の主題役割を担う動詞や知覚動詞は中間自動詞の使用の可能性は無い。

(1) It cuts well, and splits beautifully, and burns even when it is green; and it is a fast grower.

(それはよく切れ、綺麗に割れ、生でも燃える、また成長が速い)

- (2) Stale bread slices easily.
- (3) That pram pushes easily.
- (4) That shape of box doesn't wrap up very quickly.
(この型の箱は素早く包装できない)
- (5) Clothes iron better when damp.
(衣服は湿りけがあるほうがアイロンがよく効く)
- (6) These pills swallow easily.
- (7) It cooks well and is particularly useful for children who are allergic to cows' milk cheese.
(それはよく料理され、牛のミルクチーズにアレルギー反応を起こす子供に特に有用だ)
- (8) This oven cooks well. (このオーブンではよく料理できる)
- (9) This jug pours well. (この水差しはよく注げる)

(1) ~ (7) の主語は被動者(patient)だが、(8)、(9) の主語は具格(instrument)である。

- (10) Betty persuades easily. (ベテーは簡単に説得される)

「主語と目的語が人間でその目的語を主語に昇格することができる動詞がある。然し、これらはすべて他動詞であり、目的語を省略することはできない。そのような動詞が主語だけで、目的語が明示されずに生ずるなら、その主語は昇格された目的語だと知るのである。例えば *bribe*, *persuade*, や *annoy* と同じ類の動詞が挙げられる。」 (There are verbs for which subject and object can be human, and which do allow the object to be promoted to subject. But these are all strictly transitive, i.e. the object cannot be omitted. If such a verb occurs with just a subject and no stated object, we know that the subject must be a promoted object, e.g. *bribe*, *persuade*, and verbs from the ANNOYING type (Dixon 2005: 457)

annoy と同じ類の動詞には *amaze*, *bore*, *confuse*, *excite*, *frighten*, *irritate*, *puzzle*, *scare*, *shock* 等があり、生成文法では *psychological predicate* (心理述語) といわれる。

「Keyser - Roeper (1984) の挙げた文 (*Bureaucrats bribe easily.*) が或話者にとって疑わしいとか容認文であるとか意見が別れている事実は腐敗は個人ではなく集団全体に帰せられるので、少なくとも或一つの面で同一の特徴なり振る舞いがあると思われる。*Bureaucrats bribe easily.* を容認する話者は下記の文を容認するだろうと予測されるが、そのような話者はいない (Fellbaum 1986: 23)。

- (11) *Yale undergraduates teach well.
- (12) *FBI agents recognize on the spot.

bribe (買収する) は単なる行為動詞だが、*teach*, *recognize* は知識の伝授、認知に関わる動詞の違いがある。

- (13) I think Cilla doesn't photograph (=take) well.
(シラは写真写りが良くない)
- (14) Despite worries to the contrary, pressed flowers photograph well.
(駄目だろうという心配にも拘らず、押し花はよく撮れる)
- (15) Owing to poor light conditions, these particular marks did not photograph well.
(照明が良くないので、これらの特定な記号はよく撮れなかった)
- (16) This Japanese expression doesn't translate easily into English.
(この日本語の表現は簡単に英語に訳せない)
- (17) Raw vegetables generally digest badly.
(生野菜は消化が悪い)
- (18) This wine drinks deliciously .
(このワインは美味しく飲む)

以下全て知覚，感覚，認知に関わる動詞で，全て非文である。

- (19) *That film watches well. cf. That film is watchable.
(20) *Thunder hears easily. cf. Thunder is easy to hear.
(21) *Swahili learns easily. cf. Swahili is easy to learn.
(22) *His story believes well. cf. His story is believable.
(23) *Ballet likes well.
(24) *Insincerity hates easily.

2.6 不可解な動詞の類:

2.6.1 <sell, * buy / read, * write>

- (25) T-shirts and posters are selling like hot cakes, and books, stickers, videos and even a monthly magazines are on the way.
(T-シャツやポスターが飛ぶように売れ，本，ステッカー，ビデオや月刊雑誌も売れている)

selling like hot cakes は口語によく見られる成句で，BNCでは19例検索された。次のような特徴がみられる。

- i) 主語が単数でも like a hot cake のように数の呼応は起こらない
6 (cf. (26), (30), (31), etc.)
- ii) 現在進行形 4 (cf. (25))
- iii) 過去進行形 2 (cf. (28))
- iv) 現在完了進行形 2 (cf. (27))
- v) 分詞構文 3

- vi) 単純現在時制 2
- vii) 単純過去時制 1
- viii) will (should) sell 2
- ix) go like hot cakes (単純現在時制 1, 単純過去時制 2)

具体例を挙げる。

- (26) Opren was selling like hot cakes.
(オプレンは飛ぶように売っていた) (Opren (英国) は Oraflex (米) ともいい、関節炎の薬)
- (27) Personal computer networks have been selling like hot cakes.
- (28) The shares were selling hot cakes.
- (29) SCOTS HOMES SELL LIKE HOT CAKES.
- (30) Sterling +2 is selling like hot cakes.
- (31) It went like hot cakes.
- (32) It will sell like hot cakes.
- (33) Look around your shop and try to identify products which do not sell well.
(店内を見て回って売れない商品は何か見分けるようにしなさい)
- (34) I know they'd sell well with our customers.
(それらは我々のお客さんにはよく売れるよ)

「対象, 相手」に当たる前置詞は with である。以下 do, may, fail to と共起している sell well の例を付加する。

- (35) It should sell like hot cakes if I knock it into the right sort of shape.
(まともな型にすれば, 飛ぶように売れよう)
- (36) The fact is that the song did not sell well because, let's face it, it was a bloody awful record.
(事実, その歌曲はよく売れなかった。実際ひどいレコードだったから)
- (37) Some mass-produced goods may not sell well in regions which have their own styles or tastes.
(独自の生活様式や趣味を持った地域では大量生産の商品はよく売れないかも知れない)
- (38) If a product fails to sell well, the company may be left with a lot of unwanted stock which it has to sell at a reduced price.
(製品が売れそこなうと, 会社は値引きしてでも売らなければならない多くの無用の在庫品をかかえることになる)

sell は様態副詞をとらない場合がある。過去形, 進行形も可能である (Dixon 2005: 450)。BNC の検索例から判明したことだが, sell は compare と列んで中間自動詞として最も多用され

る動詞である。

- (39) Did those sports cars sell?
- (40) These red sports models do sell, don't they?
- (41) His autobiography reads (* writes) like a novel. (主語は「被動者」)
- (42) This particular fountain pen isn't short on identity and, as it writes smoothly and reliably, is no mere style item. (主語は「具格」)
(この万年筆は一見短くないし、すらすら書けるので、単なるファッション品目ではない)
- (43) On the whole the translation reads well. (概してその翻訳は読みごたえがある)
- (44) This grammar reads like a novel.
- (45) This report reads well.

「read (読める) とは判読できるということではなく、読みごたえがあるということである。従って*Your paper won't/doesn't readは容認されない。読めるかどうかではなく、読んだ際どう響くか或いはどう評価されるかが問題である (It reads well/ like a profession.告白のように読める)。(read has to do with readability, not legibility, so that *Your paper won't /doesn't read is not acceptable: there can't be an issue as to whether it can be read, only as to how it sounds or is evaluated when read (It reads well / like a confession). (Huddleston-Pullum 2002: 308 note)

- (46) Whatever his decision, this book of memoirs reads like his valedictory.
(彼の決意は何であれ、この回顧録は彼の告別の辞のように読める)
- (47) Japan's economic package reads like a resolution to a trade union conference.
(日本の経済一括法案は貿易共同会議の決議案のように読める)

然しながら、次の (48) はいずれとも読めるし、(49) は明らかに「判読できる」である。

- (48) The sentence reads clearly. (Quirk, et al.1985: 744)
- (49) Pica type reads more easily than Elite. (Dixon 1991: 330)
- (48) の主語は被動者格であるが、(49) では具格である。

2.6.2 <annoy, frighten, shock, scare, excite, *astonish, *surprise, etc.>

- (50) You're also weak and you frighten easily.
(君はもろく、すぐ怯える)
- (51) He says they don't frighten easily, and they're very docile.
(彼のいうには彼等はずぐには怯えない、彼等は大変素直だ)
- (52) I don't think I scare easily, but I sure as hell scared myself that weekend.
(私はすぐ怯えるとは思わないが、その週末はひどくこわかった)

再帰代名詞が心理動詞と共起している珍しい例である。
astonish, surpriseは何故用いられないか理由不明である。

- (53) Jay sensed in her a wild creature that scares easily.
(彼女はすぐ怯える野生の生き物だとジェイは感じた)

2.6.3 <compare, * match, * balance, * measure, * weigh, * count, etc.>

同義語の動詞の中 compareのみが数多く用いられるのが不可解である。

- (54) Architecturally I suppose it doesn't compare with a medieval university.
(建築上それは中世の大学と比べものにならないと思う)
- (55) We are not told how these risks compare with, say, working as an air hostess, or as a policewoman.
(これらの危険が、例えば旅客機のスチュワデスや婦人警官の仕事とどう比べらるか我々は伝えられていない)
- (56) They might not compare favourably with the discovery of penicillin or the invention of the wheel.
(それらはペニシリンの発見や自動車の発明と比べものにならないだろう)
- (57) Do we really believe that the rights we enjoy under our laws compare favourably with those in other societies?
(我々の法のもとで享受している諸権利は他の社会の権利と匹敵すると本当に信じますか)
- (58) Indications are that costs will compare favourably with , for instance, the cost of a bed in a private nursing home.
(費用は例えば私立老人ホームのベッドの費用に匹敵するという指摘がある)
- (59) I could have had a contract to compare favourably with any offered to anyone at the club.
(クラブの誰とも勝る契約を私はすることが出来たろう)

2.6.4 <translate, * transfer, * transpose, * transcribe, * transmit>

- (60) Jokes are clearly an important part of our popular,oral culture, from play-ground to night-club, that only partly translate well into print (in cartoons and comic postcards), outside children's joke-books.
(ジョークは明らかに遊園地からナイトクラブに至る我が国の大衆、口承文化の重要な一部である。だがジョークは子供のジョーク集の他に、活字(諷刺漫画や絵葉書)に一部しかうまく翻訳されていない)
- (61) To be useful to the non-expert, they must include items which are easily understood and which translate easily from relatively casual obserbation of the child.
(素人に役立つように、それらの中には子供を何気なく観察したことから容易に理解さ

れ解釈される項目があるに相違ない)

このグループでtranslateのみが中間自動詞として使用可能なのか不明である。

2.7 解決策

責任 (Responsibility)

(1) Toshibas do sell well, don't they?

(東芝の製品は本当によく売れるね)

(2) Products with well-known trade names sell well on their own— they need little advertising or promotion.

(有名な商標のある商品はそれ自体でよく売れる, 広告や売り込みを殆ど必要としない)

(1), (2) はBNC (British National Corpus) からの検索例である。(1) では製品の世界シェアの約2割を占め世界第2位の東芝という商標, (2) ではon their own (それ自体で) という副詞が「有名な商標をもった商品」の特徴である自身の責任 (responsibility) をよく物語っている。現実では付加価値を高めようと広告なり売り込みを繰り返しているわけである。

中間自動詞構文の主語に「責任」という素性があるといったのはvan Oosten (1986) である。

(3) This piano plays easily.

(4) *This sonata plays easily.

(3) 「このピアノはよく弾ける」とはピアノが良く調律され, 補修されており, ピアノを弾く人の技量ではなくピアノそのものの質の良さについて述べた文である。無作為に鍵盤を弾かずぶの素人でも述べることのできる文である。だがソナタの演奏は楽器の質によるのではなく, 演奏者の技量によるのであり, 従って(4) は非文なのである。誰でも易々と演奏できるソナタがあるとは考えられない (Fellbaum 1986: 13)

(5) *This applesauce will eat rapidly.

(6) Keep these pills away from the baby. They're powerful, but they eat like they were candy.

動詞の目的語が中間自動詞構文の主語として用いられるのは動詞の行為の責任があると理解される。(5) が非文で(6) のeatを用いた文が中間自動詞として容認されるのはその錠剤の口当たりの良さが子供に食べられる動機づけを与えている。like they were candyという副詞句は食べられる品物の特性 (美味しさ) が明示的に表わされていることに注意されたい (van Oosten 1986: 98)

この「責任」という概念はまたbuyとsellの用法上の相違をも説明している。sellがよくて, buyという動詞が中間自動詞として用いられないのは, buyでは商品ではなく買い手の行為がこ

の商取り引きの主たる責任があると思われるからである。販売に効果を及ぼすのは人の販売能力だけではない。売り手の販売の手腕が欠けていても商品の質が良ければ販売に積極的な効果を与えるので、sellを用いた文が許容されるのである (Fagan 1992: 76-78)

(7) i. The clothes wash with no trouble, because they are machine-washable.

ii. *The clothes wash with no trouble, because I have lots of time.

i. 「この衣服は洗濯機で洗えるので難なく洗える」ということはこの衣服に内在する特性 (inherent property) を表わしているが、ii. 「私には時間がたっぷりあるので、この衣服は難なく洗える」というのは主語の衣服の特性でなく外的理由 (external cause) によるので、ii.の文は非文となる (van Oosten 1977: 460)

広告 (Advertising) 文に中間自動詞構文がよくみかけるのは販売したい品物の質・中味を実物以上に見せたいからに外ならない。

(26) An extraordinary exciting book. A work of human art. It reads like a thriller. (S.Bedford, The Trial of Dr.Adams の広告文)

(27) This prepares in your bowl—instantly. (corn flakes の広告)

(28) It cuts like meat, chews like meat. (dog food の広告)

次に BNC で検索した中間自動詞の頻度数をあげる。

sell well	31	compare favourably with	20	(selling) like hot cakes	19
break easily	10	cut well	8	tire easily	4
frighten easily	3	photograph well	3	read well	3
open easily	2	scare easily	2	translate easily (well)	2
wash well	2	cook well	1	drink well	1
write smoothly and reliably	1				

Huddleston-Pullum (2002:308) に挙げてある一覧表は下記の通りである。

i.	alarm	amuse	demoralise	embarrass	flatter	frighten
	intimidate	offend	pacify	please	shock	unnerve
ii.	clean	cut	hammer	iron	read	wash

一見してかなりの相違が見られる。Middle Intransitive の実際の用法はかなり流動的であることを銘記すべきである。或個人の言語学者の直感 (intuition) があまり当てにならない一つの例である。実際の使用 (actual use) と使用できるかもしれない (possible use) との差をこの際あらためて想起すべきである。筆者の蒐集した BNC の上記一覧表では共起する副詞は well, easily が圧倒的で、例外として compare のみ前置詞 with が伴い、compare と共起する副詞は favourably に限られ、具格の役割を担う名詞が主語となる write では副詞は smoothly and

reliablyであった。

2.8 結論

生成文法の研究では中間構文 (Middle Construction) の名のもとに様々な動詞が具体例として取り上げられており、我々英語を母語としない者にとってはこれら動詞は一様に中間自動詞として用いられているものと錯覚しがちである。BNCで検索してみると、sell well (31), compare favourably with (20), (selling) like hot cakes (19), break easily (10), cut well (8) の使用頻度が多いが、その他の動詞の使用頻度は極めて少ない。中間自動詞として使用可能な動詞はごく僅かであることを認識すべきである。

ところで能格動詞 (ergative) は本来自動詞に「使役」(causative) という素性を付与して形成されたものとする。(e.g. 「壊れる」, 「開く」, 「沸く」 → 「壊す」, 「開ける」, 「沸かす」しかし他動詞の「投げる」はこの関係は不可能である。英語のthrowの場合も同様で、受動態にする必要がある)

intransitive + [+causative] → transitive

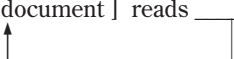

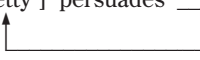
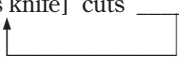
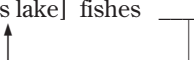
e.g. The vase broke. → Fred broke the vase. (ergative)

The water boiled. → John boiled the water. (ergative)

cf. *The ball threw. Tom threw the ball. (transitive)

一方中間自動詞 (. middle intransitive) は主題化 (thematizing principle) によって他動詞の目的語を主語の位置に昇格 (promote) させ、主題 (theme) としての役割を付与させ併せて様態副詞 (manner adverb) を付加したものである。様態副詞は通例 adjunct (付加詞) だが、middle intransitive 構文では complement (補部) であり、obligatory (義務的) である。結果として主語には「責任」(responsibility) という内在的特性 (inherent property) が宿ることになる。物を表わす目的語が主語になったため「読む」, 「切る」, 「洗う」から「読める」, 「切れる」, 「洗える」と意味変化をきたし、形態的には自動詞となり、主語に繰り上がった (promote) 名詞に「読める」, 「切れる」, 「洗える」といった過程 (process) を有する内在的特性 (inherent property) が付与され、その特性を明示的 (explicit) にするため様態副詞 (manner adverb) が伴うことが多い。主題化によって主語の位置に据えられた名詞の主題役割 (theta role) は被動者 (patient) が圧倒的であるが、経験者 (experiencer), 受容格 (recipient), 更には具格 (instrument), 場所格 (locative) の関係にあった前置詞句 (PP) 内の P+NP の P が消去され、NPのみが主語の位置に昇格 (promote) されたものとする。中間自動詞の類は現代英語で「生産的」であると時にいわれるが、英語の動詞全般を概観する時、「流動的」であるといったほうが的を得ているように思われる (心理動詞の tire や、通例は授与格をとる persuade, また場所格 (locative) をとる fish の用法の動きを見られたい)。日本語の「食べられる」を「食べれる」というような「ら」抜き用法が批判されることがあるが、英語の中間自動詞構文は「有標」(marked) であり、受動態、tough 移動構文のほうが普通で「無標」(unmarked) である。広告文に中間自動詞構文が比較的多用されるのは奇を衒って、見る人の関心を引き寄せる効果を狙

っているように思われる。

- (1) [This document] reads _____ NP well. (patient)

- (2) [Mary] frightens _____ NP easily. (experiencer)

- (3) [Betty] persuades _____ NP easily. (recipient)

- (4) [This knife] cuts _____ PP well. (instrument)

- (5) [This lake] fishes _____ PP well. (locative)


(4), (5) では PP内の P NPの P を消去し, NPのみを主語の位置に昇格 (promote) させる。

3. 名詞句外置 (Nominal Extraposition)

3.1 外置 (extraposition)

生成文法 (generative grammar) の句構造規則 (phrase structure rule) や厳密下位範疇化規則 (strict subcategorization rule) では説明しきれない, 従来気付かれなかった文構造を分析する。先ず外置 (extraposition) 変形には that節, for ~ to, WH節, ~ing は可能であるが, poss ~ing 及び名詞句を外置させると非文となることはよく知られている。しかしその名詞句を外置しても容認されている文があり, その具体例を BNC から検索する。容認される条件として It is Adj the N という文構造で形容詞は amazing, surprising, terrible など感情にうったえる意味内容をもっており, the N の名詞はどのような概念構造を持った名詞であるかを調査したのが本研究である。具体的には the way, the number, the difference, the things, the amount が多く使用されていることが判明された。この構文は機能的には感嘆文的色彩がある。まず外置 (extraposition) という移動現象を考察しておく。

1. That John quit his job surprised me.
 (ジョンが職を辞したのは驚きだった)
 That Fred is a pleasant fellow is obvious.
 (フレッドが愉快的やつだとは明白だ)
2. For you to leave so soon would inconvenience us.
 (君がそんなに急に辞めるとは不便になりますよ)
3. Whether Bill can join us isn't clear.
 (ビルが参加できるかどうかははっきりしていない)

4. Walking through the Queen's Park is wonderful.

(クイーンズパークの散策は素敵だ)

5. John's quitting his job would surprise us.

(ジョンの辞職は我々を驚かすだろう)

6. John's resignation from his job came as a surprise.

(ジョンの辞職は驚きだった)

1～6を次のように外置移動すると、5', 6' は非文となる。

1' It surprised me that John quit his job.

It is obvious that Fred is a pleasant fellow.

2' .It would inconvenience us for you to leave so soon.

3' .It isn't clear whether Bill can join us.

4' It is wonderful walking through the Queen's Park.

5' *It would surprise us John's quitting his job.

6' *It came as a surprise John's resignation from his job.

4'に見られるように～ing は外置可能だが、5. poss ～ing 6. 名詞句の場合は外置は不可能である。なお4' の～ing は先行する述部形容詞の性質によって容認される場合と容認されない場合がある。

i) It is no use crying over spilt milk.

(こぼれたミルクを嘆いてもしかたがない。覆水盆に返らず)

ii) *It is importat telling the truth.

概して (a) easy, exciting, dull,hard, irritating, nice, pleasant, regrettable, useless, wonderful, fun, no good, no use,etc.に見られるように形容詞の意味 内容が反応タイプ (reaction-type) であると外置移動が可能だが、

(b) common, normal, important, necessary, illegal,etc.に見られるように認知タイプ (cognition-type) の場合,ii) に見られるように非文である (Hudson. 1971. p.174, p.215)。

3.2 名詞性 (Nouniness)

外置移動現象に次のような階層関係があることを指摘したのはRoss (1973) である。左に傾くほど節的 (clausy) であり、右に傾くほど名詞的 (nouny) であることを示す。

that 節 > for ～ to > wh 節 > ～ing > Poss ～ing > 名詞句
clausy ← → nouny

1. It was regrettable {
1. that John could not go there.
 2. for Max to have to pay rent.
 3. how long you ran after Lucy.
 4. getting up late every morning.
 5. ? *Max's getting arrested.
 6. *John's willingness to sign.

2. I think that {
1. *that we stayed on
 2. ? for us to stay on
 3. how long we slept
 4. reading no books
 5. Tom's staying on
 6. his behavior
- } was deplorable.

3. I was surprised {
1. *at that you had hives.
 2. *at to find myself underwater.
 3. (at) how far I could throw the ball.
 4. at finding it so soon.
 5. at Jim's doing that.
 6. at the news.

4. It was {
1. *that you were a spy that I thought.
 2. ?for the Red Sox to win that we were hoping.
 3. which side he supported that was hard to decide.
 4. smoking here that Lucy disliked.
 5. their being so ill-tempered that I objected to.
 6. his plan that we rejected.

1. は外置の諸構文で既に説明した。2. では補文子 that の後の名詞節で更に that 節や for ~ to 構文を組み込むと非文になるが、WH 節, ~ing, Poss ~ing, NP を続けることはごく自然である。3. では be surprised の後に that 節, to 不定詞を続けるには at は不必要であり、wh 節での at の使用は随意的だが、ing, Poss ~ing, NP では at の使用は義務的であることを物語っている。4. は it 分裂文 (it cleft) の諸例で焦点 (focus) の占める要素に WH 節, ~ing, Poss ~ing, NP を置くことは許容されるが、that 節の場合には非文であり、for ~ to 不定詞を続けると容認性に関して疑わしくなることを表わしている。

3.3 感嘆文的機能

通例、感嘆を表わす表現形式には次に見られるように多種多様である。1.が典型的な感嘆文である。2.は1.のHow much I spent!という文の一部のhow muchをthe amountという名詞に換え次にI spent を続け、全体として構造的には名詞句である。2.は感極まって発した感嘆文で名詞句のみの感嘆文 (Bare NP exclamatory) といわれている。3.はbelieve の目的語の位置に1.のhow much I spent を後続させ、間接感嘆文 (indirect exclamatory) となっている。4.はhow much I spent というwh節を名詞句に置き換えている。この構文は変形生成文法の研究が盛んであった頃「潜伏感嘆文」(concealed exclamatory) と称されて潜伏疑問文 (I want to know the amount you spent.) と関連づけられて考究された。5.はwh節の外置移動構文である。6.が本論文で取り上げる名詞句外置 (nominal extraposition) である。最後に7.は右方転位 (right dislocation) といわれる構造である。6.との決定的相違は述部形容詞の後にコンマを付する点であり、音声言語では休止 (ポーズ) を介在させる。

1. How much I spent !
2. The amount I spent ! (Bare NP exclamatory)
3. I can't believe how much I spent. (indirect exclamatory)
4. I can't believe the amount I spent. (concealed exclamatory)
5. It's incredible how much I spent. (extraposition)
6. It's amazing the amount I spent! (nominal extraposition)
7. It's amazing, the amount I spent. (right dislocation)

2.の類例を挙げる。偶々見つけた例である。

- (1) The hours he had to wait for her when, going to the cupboard and looking at the dresses hanging there, she changed herself into another woman ! - Pritchett, The Cage Bird
(彼女が洋服だんすのところへ行き、そこに下がっている何着かのドレスを眺めては別人に成り済ましていく間、彼はなんと何時間も彼女を待ち続けなければならなかったことか)

文末が感嘆符 (!) で終わっていることに注意されたい。文頭のThe hoursをHow many hoursと解すればよいわけである。

- (2) The times (= How many times) I've told you not to bite your nails !
(爪をかんじゃいけないと何度言ったら分かるの!) 躰にやかましい教育ママの発言である。
- (3) Things that go on here. I've seen many of these patients, they need help, but they don't have enough help. __S.Terkel, Working.
(ここで起こっていることときたら。こういう患者を沢山見てきた。助けを必要として

いるのだが、十分な援助を受けていない)

4. Concealed exclamatory (潜伏感嘆文) の例。

- (4) John couldn't believe the height of the building.
(ビルはその建物がなんと高いか信じられなかった)
- (5) I can't believe the amount of the stolen jewels.
(盗まれた宝石がなんと多量か私には信じられない)

いずれの文も how high the building was! なり how much the stolen jewels were! の意がある。

関連して Concealed question (潜伏疑問文) の例を挙げる。いずれに解するか両者の相違は先行する動詞の意味的相違による (Grimshaw 1979)。

- (6) I want to know the kind of person he is. (=what)
(あの方はどんな方なのか知りたい)
- (7) Tell me the house you wished that package delivered to (=what)
(その小包みをどの家に配達してもらいたかったのかおしえてください)
- (8) Our experienced Careers Advisers will help you to identify those parts of the services to which you may be best suited. (=what)
(経験を積んだ職業相談員はあなたがどんな職種に一番適しているか教えてください)

the, those を what の機能に解している点に注意されたい (cf. IV [3])。

次に取り上げるのが本論文の主題である名詞句外置 (nominal extraposition) である。

- (9) It's amazing the amount I spent.
(僕が使った額ときたらあきれられるばかりだ!)

この構文は 3. It's incredible how much I spent. の how much I spent という wh 節を the amount I spent という名詞句に替えて生成された文である。従って 1.~7. は相互に絡み合って生成されており、いずれも感嘆を表わしている。The amount I spent is amazing. では the amount I spent が theme (主題), is amazing が rheme (題述) で通例の語順 (canonical word order) を持った文であるが主題の the amount I spent を文末に移動させて生じた文である。この文は 5 文型は勿論のこと句構造規則でも説明できない特異な文である。更にこの名詞句外置は次の右方転位 (right dislocation) とは似て非なるものである。その決定的な相違は述部形容詞の後に休止が置かれ、書かれた場合カンマを付すのである。

(10) It's amazing, the amount I spent. (RD)

(あきれるばかりだ、僕が使った額は)

次に右方転位構文について幾つか類例を挙げる。

(11) では述部形容詞(述詞)のあとのnowadaysに下降調の音調核があり、休止のポーズ(,)を置いて補足的説明(after-thought)のように動名詞を続けるのである。birdsには上昇調の強勢が置かれる。

(11) It is illegal nowadays, shooting birds here in the countryside.

(現在は違法です、この辺の田園で小鳥を狩猟することは)

(12) It was a pleasant experience, listening to all that classical music during the festival week.

(楽しい体験でした、その祭りの1週間あのクラシック音楽すべて聴けるなんて)

(13) They're rather expensive, those geraniums.

(全く高価だね、あのゼラニウムは)

(14) He had been clever to ferret her out, the menacing young man. - E.Taylor, Sister.

(彼女の秘密を暴きだすとは抜け目がなかった、この脅し文句をならべる若者は)

(15) I always like a bit of singing and dancing, some variety. It takes you out of yourself, singing and dancing. - S. Hill, A bit of singing and dancing.

(私は歌ったり踊ったりやバラエターが好きです。気がまぎれますよ、歌ったり踊ったりするのは)

右方転位の特徴は数の一致が見られることである。上例でTheyはthose geraniums, Heはthe menacing young man, itはsinging and dancingを受けていることが分かる。

3.4 名詞句外置と右方転位

[1] 数の一致 (number agreement)

(1) It's amazing the people I met there. (NE)

(2) They're amazing, the people I met there. (RD)

(3) It's amazing, the people I met there. (RD) - Michaelis - Lambrecht (1996, 229)

通例の右方転位(RD)なら主語は(2)のようにTheyとなるところである。Itで受けていることはItはthe numberなりoddityを含意する。なおMichaelis-Lambrechtは(3)も右方転位構文の1種だと言っている。しかしBNCでは(3)に類する例は1例も検索されなかった。英語を母国語とする研究者は兎角自分の言語直感(intuition)に頼るあまり陥る落とし穴である。corpus(コーパス, 言語資料)を活用することによって多量の用例を蒐集することができ、はじめて欧米の研究と太刀打ちできるようになった。

[2] 度合い (scalar extent)

(1) It's amazing the things children say. (NE)

(子供達の喋ることときたら驚きだ)

この文は It's amazing what things children say. (子供達は何といろいろなことを喋ることか驚きだ) という wh 外置構文と同じ機能を有する。

(2) They're amazing, the things children say. (RD)

(驚きだ, 子供達の喋ることは)

この文を * They're amazing, what things children say. ということはできない。この文は wh 外置と右方転位の混成であり非文となる。右方転位構文には度合い (scalar extent) の含意は無いのである。

[3] 度合いの意味 (the meaning of scalar extent)

(1) It's amazing the odd people my sister knows.

(妹の知り合いの変わった人達ときたら驚きだ)

この文は脈略に応じて It's amazing the variety of odd people my sister knows. とも It's amazing the number of odd people my sister knows. にも解することが出来, その含意は「様々」とも「多数」ともいずれにも解せられる。従って (1) の名詞句外置構文は wh 外置構文の It's amazing how many odd people my sister knows. とも, 間接感嘆文の I'm amazed at how many odd people my sister knows. と同機能である。ちなみに名詞句外置に見られる the way は how, the number は how many に, the difference は how different, the things は what, the amount は how much に言い換えることができる。それぞれの NP に scalar extent (度合い, どの程度) が含意されていることが理解できる (VI. 参照)。

[4] 等位節 (co-ordinate clause)

下記の 1. は等位接続詞 and で結ぶことができるが, 2. の名詞句外置文は and で結ぶことは出来ない。右方転位文も非文となる。

(1) She's amazing in math and is remarkable in physics.

(2) *It's amazing the difference and is remarkable the price.

(3) *It's amazing, the difference and it is remarkable, the price.

[5] 焦点と話題 (focus vs topic)

次の(1)の文は名詞句外置文で「投資の増加がもたらした相違たるや目覚ましい」という意味である。the difference the increase in investment has made なる部分は「焦点」(focus)をおび、「投資の増加がいかなる相違をもたらすか」という意で「新情報」(new information)である。一方(2)は右方転位文で「目覚ましい、その相違は」という意味である。that difference は「話題」(topic)であり、「旧情報」(old information)である。

- (1) It's amazing the difference the increase in investment has made. (focus: new information)
(投資の増加がもたらした相違たるや驚異的だ)
- (2) It's amazing, that difference. (topic: old information)
(驚異的だ、その相違は)

類例を挙げる。(3)では amazing の後にコンマがなく、後続する名詞句 ideas は複数形になっている。(4)は主語と後続する名詞の数の一致が見られることから右方転位文であることは明白である。

- (3) It's amazing the ideas that can come to mind with a little thought and some extra effort on your part.
(君がちょっと考え、余計に努力すれば如何なる着想が心に浮かんでくるか驚くほどだ)
- (4) They're amazing, those ideas.
(驚くほどだ、それらの着想は)

[6] 冠詞の分布 (the distribution of the article)

右方転位文ではthe,thatが許されるが、不定冠詞 aを用いると非文となる。名詞句外置文では定冠詞 the が用いられる。一方存在文では不定冠詞のみ文法的であるのはいうまでもない。

1. right dislocation: It's amazing, (* a, the, that) difference.
2. nominal extraposition: It's amazing (* a, the, * that) difference the increase in investment has made.
3. existential sentence: There's (an, * the, * that) amazing difference.

3.5 名詞句外置可能な形容詞

BNCから検索した名詞句外置可能な形容詞を次に挙げる。

ところで筆者がBirmingham大学でCOBUILD Corpusを検索していた頃を思い出すのだが、例えばa hell of a job, a whale of a time, a peach of an ideaという単語の連鎖に興味を抱いて調査していた。しかしどうすればこの種の語結合をあますことなくコンピュータから拾い上げるか。結局それぞれの語結合の共通項を見つけることでこの場合of + a, of + anであることに気付いたことであった。本研究ではどうするか。Isn't it amazing the choice that one has in tobacco. It was

really uncanny the way he did it all the time. It's terrible the way Roy drinks and drives!に見られる名詞句外置文の共通項は「形容詞 + the」である。各形容詞の後のカッコ内の数字は頻度数を表わす。

1. amazing (22)	2. surprising (8)	3. terrible (7)
4. odd (6)	5. strange (6)	6. interesting (5)
7. funny (4)	8. uncanny (4)	9. curious (3)
10. incredible (3)	11. wonderful (3)	12. appalling (2)
13. astonishing (2)	14. disgusting (2)	15. fantastic (2)
16. marvellous (2)	17. pathetic (2)	18. remarkable (2)
19. shocking (2)	20. admirable (1)	21. deplorable (1)
22. disappointing (1)	23. disgraceful (1)	24. extraordinary (1)
25. inconceivable (1)	26. unbelievable (1)	27. weird (1)
28. absurd (0)	29. exciting (0)	30. irritating (0)
31. miraculous (0)	32. pleasant (0)	33. regrettable (0)

incredible(3), unbelievable (1) はいずれも「信じ難い」(very difficult to believe) という意だが, incredibleには更に転じてextremely good (すばらしい, 素敵な, 驚くべき, とてつもない) という「度合い」の含意が生じ, 感情的色彩が強いので名詞句外置構文に多く使用されていると思われる。

3.6 形容詞の後に生起可能な名詞句

APの後に現われるNPを調べてみるとthe way (55回), the number (11回) . the difference (4回), the things (3回), the amount (2回), the kind (2)その他, が検索された。

[1] the way (55) の前に現われる形容詞の頻度数

1. amazing (6) : It's amazing the way mutual mistrust can disappear.
(相互不信が消え去るさまは驚くべきことです)
2. interesting (5) : It is very interesting the way two different groups react to the same situation.
(二つの異なる集団が同じ状況に反応する様子は興味津々たるものがある)
3. strange (5) : It's strange the way that chains of thought and ideas are triggered; there is often a delay.
(一連の思想や観念が引き起こされるさまは不可解だ。しばしば遅延がある)
4. funny (4): Funny the way territories persist.
(地域の人達があくまで主張し続けるのはおかしなものだ)
5. uncanny (4): It was almost uncanny the way he had painted a picture of her teenage appearance.
(彼が彼女の十代の格好の絵を描いたのには薄気味悪かった)

6. odd (3) : Babs Osborne said it was odd the way Stella was always around when tragedy struck.

(惨事が起こるとステラの姿が何時も辺りにあったのは変だとバブズ・オズボンと言った)

7. terrible (3) : Isn't it terrible the way we allow advertisers to manipulate us ?

(広告業者にうまく私達を操るままにさせておくのはひどいじゃないですか)

8. wonderful (3) : It's wonderful the way I can feel the audience reacting warmly towards me.

(聴衆が温かく応えてくれていると感ずることができるのは素敵なことです)

その他の形容詞

9. appalling (2)

10. curious (2)

11. disgusting (2)

12. pathetic (2)

13. remarkable (2)

14. shocking (2)

15. admirable (1)

16. astonishing (1)

17. deplorable (1)

18. dissapointing (1)

19. disgraceful (1)

20. extraordinary (1)

21. fantastic (1)

22. incredible (1)

23. marvellous (1)

24. weird (1)

25. surprising (0)

26. unbelievable (0)

[2] the number (11) の前に現われる形容詞

1. amazing (4) : It's amazing the number of computer users that pick up a pen or pencil to take a telephone message when they're sitting in front of a working PC.

(作動しているパソコンの前に座っている時電話の伝言を受けるためペンか鉛筆を取り上げるコンピューター利用者達の数ときたら驚くべきだ)

2. surprising (3) : It's surprising the number of people who do speak Spanish.

(スペイン語を実際喋れる人の数ときたら驚異的だ)

3. terrible (2) : It is terrible the number of people who do not keep even appointments for surgery!

(手術の約束も守らない人の数ときたらひどい) 文末に感嘆符 (!) が付加されていることから感嘆文と解される。

4. astonishing (1) : It is astonishing the number of attractive frames that are discarded when someone changes the colour scheme of their home .

(家の色彩計画をかえる時処分される魅力的な窓枠の数たるや驚くべきだ)

5. unbelievable (1) : It's unbelievable the number of thieves there are, he said

[3] the difference (4) の前に現われる形容詞

1. amazing (3) : It really is amazing the difference the increase in investment has made.

(投資の増加がもたらした相違には本当に驚きだ)

2. surprising (1) : It is surprising the difference such a relatively small decorative touch can make to an ordinary room or staircase.

(そのように僅かな飾り付けの手を加えただけで普通の部屋や階段に与える違いたるや驚きだ)

[4] the things (3) の前に現われる形容詞

1. terrible (1) : It was terrible the things that used to happen.

(以前よく起こった事ときたらひどかった)

2. odd (1) : It really is odd the little things that bring an instant response.

(瞬時に反応するその小さな物体たるや本当に奇妙だ)

3. funny (1) : Funny the things you remember.

(君が記憶していることときたらおかしい)

[5] the amount (2) の前に現われる形容詞

1. surprising (1) : It can be surprising the amount of pressure a little wet concrete puts on shattering.

(僅かの濡れたコンクリートがよろい戸に及ぼす圧力たるや驚くべきである)

2. incredible (1) : It's incredible the amount of fear that comes from that fire in the film.

(映画のなかでのあの火事で生じた恐怖感たるや信じられないほどだ)

[6] the kind (2) の前に現れる形容詞

1. amazing (1) : It's amazing the kind of remarkable things.

(どんな顕著なことかは驚くべきことだ)

2. incredible (1) : It is sometimes incredible the kind of information people expect the reception desk to supply.

(ホテルの受付係に頼りにされる情報の種類たるや時に信じがたい)

その他:

1. It was amazing the noise generated.

(発生させる騒音たるや驚くほどだった)

その他の名詞 the bargains, the choice, the ideas, the weights, the collection, the tidy little poems

2. It is surprising the warm water going on.

(温かい水が流れているとは驚異的だ)

その他の名詞 the extent, the interest, the size

3. It is terrible the price of it.
(その代償たるや恐ろしい)
4. It is odd the memories that can suddenly come into your mind.
(不意に心に浮かぶ思い出たるや奇妙である)
5. Strange the certainty of bad news so that we don't even need to be told.
(話してもらおう必要さえ無い悪い知らせの確かさは不思議だ)
6. It is curious the hold on the public's —; and indeed the the athletes' —; imagination the AAA
Championship has.
(英国アマチュア競技協会の選手権の持つ世論の、実際スポーツ選手の想像力を支配する
力は奇妙だ)
7. It is fantastic the money they made out of it.
(それから儲けた金は素晴らしい)
8. It is really marvellous the vista from the top.
(頂上からの展望は実に素敵だ)
9. It is almost inconceivable the waste that has mercilessly made havoc of rh ancient Memorials
that gave renown to Stamford.
(スタムフォード (イギリス古戦場の村) を著名にした古代名跡を容赦なく壊した荒廃た
るや考えられないほどだ)

3.7 結論

iii. の冒頭で次の文を列挙した。

1. How much I spent!
2. The amount I spent!
3. I can't believe how much I spent.
4. I can't believe the amount I spent.
5. It's incredible how much I spent.
6. It's amazing the amount I spent!
7. It's amazing, the amount i spent.

興味ある発見はHow much I spentという文 (S) を the amount I spentという名詞句 (NP) に
変換していることである。その点1.と2.,3.と4.,5.と6.が対応しており, 7.は6.の文の述部形容詞
の後に休止の印としてコンマを付している点の相違である。

広く現代英語を見るに次の類似の事象に気付くのである。

- (1) I want to know the kind of person he is.
- (2) He will help you to identify those parts of the services to which you may be best suited.

(3) I can't believe the extent of their dependency on Washington.

(4) John assesses the aspects of natural language processing computers cannot readily cope with.

(5) It is the use to which we are putting our language that is unfamiliar.

これら the, those には度合い (scalar extent) の含意があると考えられ、それぞれの名詞句は次のような文と対応をなす。

(1) ... what he is. (2) ... what parts of services you may be best suited to. (3) ... how much they are dependent on Washington. (4) John assesses what aspects of natural language processing computers cannot readily cope with (コンピュータが自然言語の解析のどの面を簡単にでは対処できないかをジョンは査定している) (5) It is how we are putting our language to use that is unfamiliar. (よく解らないのは私たちが言語をどのように使用しているかである)

したがってある考えを文 (S) で表わすのと対応して名詞句 (NP) のかたまりで表わすことが英語という言語の特徴で、我々日本人にとっては文で表出することに慣れているのでそれだけ名詞句で表わされると理解困難になると思われる。

以上の観察を句構造規則でまとめると次のようになる。

$$\text{Wh} \left\{ \begin{array}{l} \text{Exclamatory} \\ \text{Interogative} \end{array} \right\} \rightarrow \text{Det N (PP) (S)} \quad \text{S} \rightarrow \text{NP}$$

以上 Michaelis-Lambrech (1996) に示唆を得て名詞句外置 (Nominal Extraposition) について考察した。形態的には It is (was) A the N という構造をとり、時制は現在形か過去形である。A にあたる形容詞は amazing が最も頻度が高く、surprising, terrible, odd, など感情の起伏の激しい意味内容をもった形容詞に限られる傾向にあり、the N の名詞は the way が一番多く、次に the number, the difference, the things, the amount, the kind 等がある。これらの名詞は scalar extent (度合い) の意味合いがあり、それぞれ how, how many, how different, what things, how much, what と同じ機能を果たしている。

形容詞の持つ意味が感情的色彩が強く、続く名詞がいずれも scalar extent (度合い) が含意されることからこの名詞句外置は機能的には日常のくだけた (informal) な場面で用いられる一種の感嘆文であるといえよう。BNC という corpus を活用することにより、人力では到底蒐集出来ない程多量の実例を検索でき、従来では果たせなかった数多くの実例を観察することができ、名詞句外置 (Nominal Extraposition) という言語現象に迫ることが出来たと思われる。

註1. Jespersen が既に50年以上前にこの構文の存在に気付いていたことは驚異に値する。MEG VII (1949) 4.6.7では Preparatory it の項目の下で次のような諸例を挙げている。

(1) It was perfectly horrible the way that people were being kept in the dark. (= how people

were ...)

(人々が暗闇に閉ざされていた様子は全くひどいものでした)

(2) It is incredible the number of devil practices he has put down.

(彼が止めさせた弊習の数たるや信じ難いほどだ)

然し文中にコンマが挿入されている文も挙げている。今日では右方転位 (right dislocation) として研究されている文である。

(3) It's getting on my nerves, this business.

(苛々させるね、この仕事は)

(4) It is inconceivable, the agony with which this public veneration tortured him!

(今となっては思いもよらないほどだ、このように世間から崇敬され彼は苦悶にさいなまれた様は)

文頭のitが複数名詞を受けることさえある例として次の(5)を挙げている。これはまさにここで取り上げている名詞句外置構文である。

(5) It's extraordinary the things one can do without.

(無くても済ませるものが多々あるのは驚くべきほどだ)

(3), (4) は右方転位の例である。(5) の文で先行する代名詞が後続する the things を受けらるなら They'r extraordinary, the things one can do without. という文になるであろうから、これは右方転位として解される文である。さすがの Jespersen も、本稿で取り上げた nominal extraposition の形式や機能を充分には理解しないまま、ただ例文を雑然と列挙するのみに終わっている。55年前ということを使うといたしかた無しとすべきである。

註2. Huddleston - Pullum.2002.p.1407に次の文もここでいう nominal extraposition の例として挙げられている。

It impressed me the way she disarmed him.

然しながら BNC での検索の結果 It impressed me の後に the way が続く構文は皆無であった。It impressed me....には It's amazing...にみられるような感嘆文的色彩が薄いように思われる。

References

- Ackema, P. and M. Schoorlemmer, 1994. "The Middle Construction and the Syntax-Semantic Interface," *Lingua* 93, 59-90.
- Arnold, J. E. et al. 2000. "Heaviness vs. Newness: The Effect of Structural Complexity and Discourse Status

- on Constituent Ordering.” *Language* 76, 28 - 55.
- Birner, B.1994. “Information Status and Word Order” *Language* 70. 233-259
- Dixon, R.M.W. 1991. *A New Approach to English Grammar on Semantic Principles*, Clarendon press, Oxford.
- _____. 2005. *A Semantic Approach to English Grammar*. Oxford University Press.
- Fagan, S. 1992. *The Syntax and Semantics of Middle Constructions A Study with Special Reference to German*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Fellbaum, C.1985. “Adverbs in Agentless Actives and Passives,” *CLS* 21, Pt.2, 21-31.
- _____. 1986. *On the Middle Construction in English*, Indiana University Linguistics Club.
- Goldberg, A.1995. *Construction : A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago : University of Chicago Press.
- _____. 2006. *Construction at Work*. Oxford University Press.
- Goldsmith, J. 1984. “Causative Verbs in English,” *CLS* 20. Pt 2.117-130.
- Grimshaw, J. 1979.” *Complement Selection and the Lexicon.*” *Linguistic Inquiry*. 10. 279 - 326
- _____. 1990. *Argument Structure*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Hale k. and S.J. Keyser. 1993.” *On Argument Structure and the Lexical Expression of Syntactic Relations,*” Hale, K. and S.J. Keyser (eds) *The View from Building 20* . 53-109. MIT Press.
- Halliday, M.A.K. 1967, 1968. “Notes on Transitivity and Theme in English,” *Journal of Linguistics*. 3.37-81; 3.199-244 : 4.179-215
- Huddleston, R. and G.K.Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge : Cambridge University Pres.
- Hudson, R.A.1971. *English Complex Sentences*. Amsterdam : North-Holland Publishing Company.
- Jackendoff, R.1987. “The Status of Thematic Relations in Linguistic Thory.’ *Linguistic Inquiry*. 18. 369-411.
- Keyser, S.J. and T. Roeper 1984. “On the Middle and Ergative Constructions in English,” *Linguistic Inquiry* 15, 381-416.
- Lambrecht, K. 1994. *Information Structure and Sentence Form*. Cambridge : Cambridge University Press
- Levin, B.1993. *English Verb Classes and Alternations*, University of Chicago Press.
- McCawley, J. 1998. *The Syntactic Phenomena of English*. Chicago : University of Chicago Press.
- Michaelis, L. and K. Lambrecht.1996. “Toward a Construction-Based Theory of Language Function : the Case of Nominal Extraposition” *Language*.72.215-247
- Ross, J.R. 1973. “Nouniness” in Fujimura, O. (ed.) *Three Dimensions of Linguistic Theory*. TEC.
- Rosta, A. 1995.” ‘How Does This Sentence Interpret?’ *The Semantics of English Mediopassives,*” in B. Aarts and C.F. Meyer (eds.) *The Verb in Contemporary English: Theory and Description*, 123-144, Cambridge University Press.
- van Oosten, J. 1977. “Subjects and Agenthood in English,” *CLS* 13, 459-471.
- van Oosten, J. 1986. *The Nature of Subjects, Topics and Agents: A Cognitive Explanation*, Indiana University Linguistics Club.
- 村田勇三郎 2005. 『現代英語の語彙的・構文的事象』 開拓社

資料 (コーパス)

- COBUILD (= Collins Birmingham University International Language Database)
- BNC (= British National Corpus)